

令和5・6年度 小松市教育委員会指定  
学力向上推進事業 研究発表会  
令和7年1月20日(月) 小松市立板津中学校

研究主題

目標達成に向けて、共に学び合う生徒の育成  
～ AARサイクルを意識した授業実践を通して ～

1. 日程

13:10	13:30	14:20	14:35	14:55	15:00	16:30	16:40
受付	公開授業 1年2組 数学(2F) 2年1組 社会(3F)	休憩	全体会 (2F会議室)	準備	講演会 (2F会議室)	閉会	

2. 公開授業 (13:30～14:20)

学年・組	教科	単元名	授業者
1年2組	数学	7章 データの分析と活用 1節 データの整理と分析	新田 竜平
2年1組	社会	第3章 近世の日本 第5節 幕府政治の改革	江戸実佳子

3. 全体会 (14:35～14:55)

(1) 開会挨拶	小松市教育委員会	教育長	山本 民夫
(2) 研究概要説明	本校研究主任	教諭	安田 暦
(3) 講評	小松市教育委員会	学校教育課長	宮森 陸夫

4. 講演会 (15:00～16:30)

演題 「Backward Design (バックワード・デザイン) を活かした授業づくり」  
講師 英語 “ワクワク授業” 研究所 代表 中嶋 洋一 氏

5. 閉会

謝辞 校長 本 美紀

## 1. 研究主題

目標達成に向けて、共に学び合う生徒の育成  
～AARサイクルを意識した授業実践を通して～

## 2. 主題設定の理由

昨年度は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、生徒一人ひとりが思考を深め、表現力を高めることに焦点を置き、学校研究を行った。本時のねらいや流れを生徒と共有したり、生徒が話し合いや交流の目的を理解して取り組んだりするなど、意欲的に学ぼうとする生徒の姿も多くみられるようになった。一方で、教員と生徒の学習アンケートの結果を比較すると、表現する場面や振り返る場面の質問項目の肯定的な回答の割合に30%以上の差があった。いずれも、「工夫して発表している姿」や「振り返りの仕方」など、教員が求めている生徒のゴールの姿と、生徒がイメージするゴールの姿の間に差があると考えられる。生徒の数値の方が高いことから、教員と生徒との間で、目標とする姿の共有が十分にできていないのではないかと考えられる。また、振り返りの場面においても、視点を明確にできなかつたり、十分に時間を取れなかつたりした等の課題も残った。

今年度も、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、子どもが目標達成できる授業の実現を目指していく。そこで、『Anticipation(見通しを持つ)－Action(実践する)－Reflection(振り返る)』のAARサイクルを意識した授業設計を共通実践として取り組んでいきたい。具体的には、単元マップや振り返りシートの作成・活用に力を入れ、生徒につけさせたい力を明確にしたり、自己の変容を実感したりできるような授業づくりを目指していく。また、一斉授業で知識・技能の定着を図り、生徒が考え動く授業(個別最適な学びと協働的な学びの往還)によって、思考力、判断力、表現力を伸ばしていけるような単元計画の練り上げのために、教科部会を充実させるなど、組織的な授業改善につなげていきたい。

## 3. 今年度の重点取組および授業づくり4つの視点

《重点取組》⇒共通実践

- (1) 見通しを持つ → 「単元マップ」の作成・活用(学びは我が事と捉えさせる。)  
授業づくりの4つの視点 視点①, ②
- (2) 実践する → 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。  
授業づくりの4つの視点 視点③
- (3) 振り返る → 「振り返りシート」の作成・活用(学びの値打ちを実感させる。)  
授業づくりの4つの視点 視点④

《授業づくりの4つの視点》

### 視点① 本時のねらいを理解し、学習の見通しをもたせる工夫

- ・何がどのような水準でできるようになることを求めているか明確に分かるように伝える。
- ・課題に取り組む値打ちを理解させ、必要であれば前時の復習を行う。
- ・本時の授業の流れ(常に見える化=安心)を伝え、学習の構えづくりを行う。  
(この学びで何を目指すのか、自分の学びが仲間の学びにつながる意識を)

### 視点② 深い学びに導く学習課題づくりの工夫(単元構想マップの作成・活用)

- ・挑戦を要求するような課題設定とする。
- ・生徒が主体的に課題を設定し、自らの学びの見通しを持てるようにする。

### 視点③ 考え、深め合う場の工夫(個別最適な学びと協働的な学びの往還)

- ・ねらいを達成するための学習形態を工夫する。
- ・学習内容や学習過程、学習形態を生徒自身が判断・選択できるようにする。(ICT活用等)
- ・インプットとアウトプットを繰り返すことができるようにする。

### 視点④ 振り返る活動の工夫

- ・目標にそった振り返りができるよう、振り返りの視点を明確にする。  
①学習内容の確認 ②これまでの学習内容との関連付けや一般化 ③自己の変容の自覚

# 板津スタイル

## 基本姿勢

1. 授業準備をしっかりと！  
(忘れ物なし&休み時間に準備)
2. ベル学する！
3. 挨拶は心を込めて全力で！
4. 安心して発言できる雰囲気！  
(まちがいを恐れない！笑わない！)
5. 自ら求めて聴く！反応する！

## 学びの姿勢

1. 今日の学習を見通す！
2. 今日の課題を確認する！
3. 自ら取り組み自分の考えを持つ！
4. 自分の考えを明確に伝え合う！
5. 自分の考えを深める・広げる！
6. 今日の学びを振り返る！

## 4. 今年度の検証方法

(1) 定期的な教科部会の実施による情報共有

(単元計画や振り返りを共有し、改善につなげる。)

### ①単元マップの作成・活用

### ②振り返りシートの作成・活用

### ③今年度の重点取組(1)～(3)の実践の振り返り

(2) 生徒及び職員アンケートの数値比較による分析

- ・ 生徒学習アンケート，教職員アンケート  
→ 1学期末，2学期末に実施
- ・ 授業づくりアンケート(教員)  
→ 1学期末，2学期末に実施

## 5. 研究組織

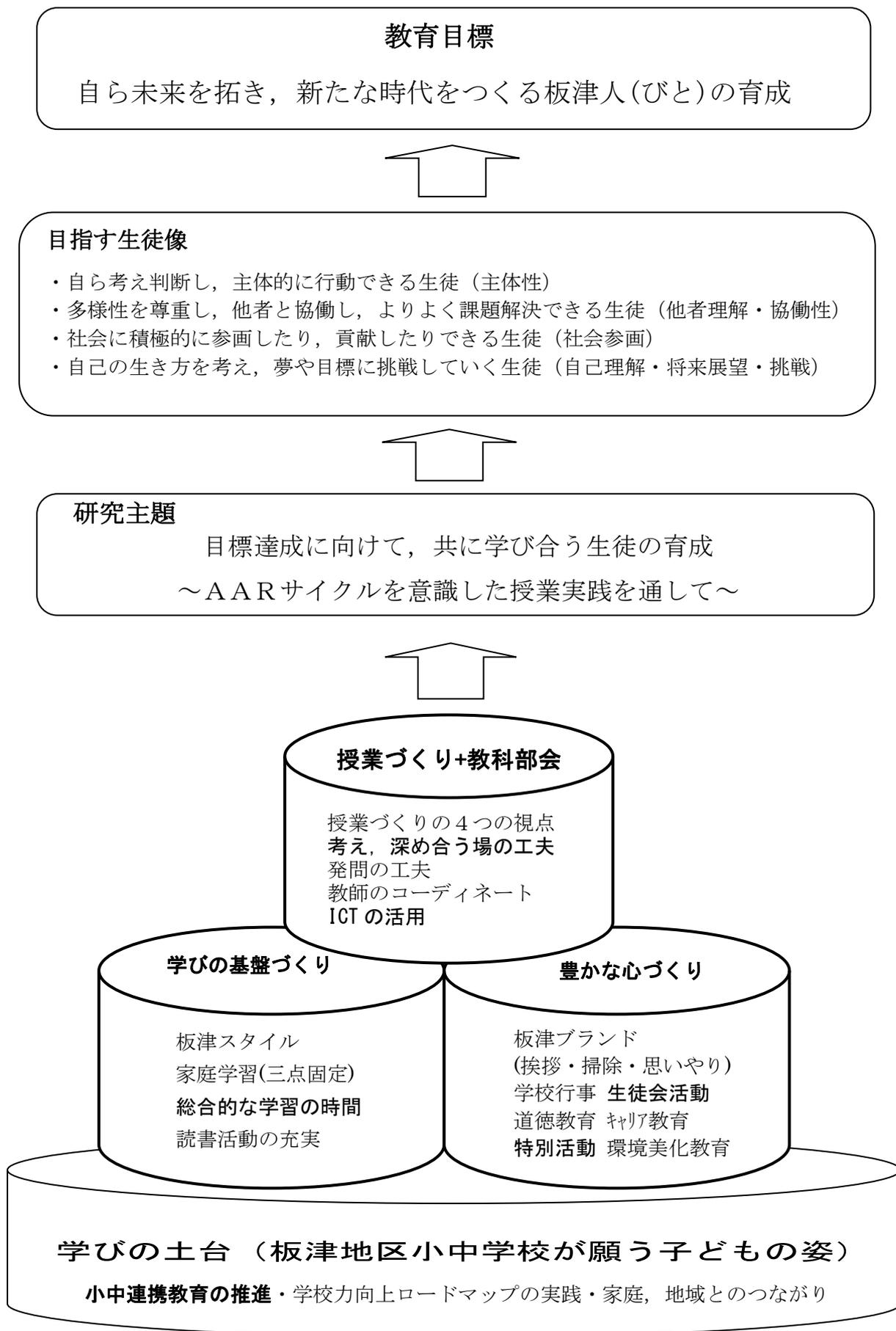
組織名	構成員（○リーダー）	内 容
研究推進委員会	校長 教頭 教務主任 ○研究主任 各学年研究担当 各教科主任	研究方針，研究計画 研究の現状把握，分析 県・国学力調査の分析・活用 学校力向上ロードマップの修正 授業評価（教師・生徒） 保護者アンケート 校内掲示
授業づくりチーム	○研究主任 各学年研究担当	授業づくりの視点の重点化 生徒指導の4つの視点を生かした授業 振り返りシートによる見取り 授業実践報告
学びの基盤づくり チーム	○教務主任 学年主任	板津スタイルによる規律の確立 学習規律「学びの姿勢」 家庭学習の習慣化 活用力の向上
豊かな心づくり チーム	○生徒指導主事 特別活動担当 道徳教育推進教師	仲間づくり活動 学級力向上活動 安全・安心アンケート 積み上げられた道徳教育の継承 系統的なキャリア教育
小中交流部	○教頭 小中連携推進委員	いたづ四校会との連絡調整 校区内合同研修会 小中交流会 四校の学力調査の分析・活用

## 6. 研究計画

月 日	研修会名	研 修 内 容
4月 4日	職員会議	研究主任より 研究の概要の提案
5月14日	<b>第1回校内研修会</b>	<b>授業公開 講習会</b>
6月～7月	計画訪問	公開授業（全員） 研究授業 授業整理会（全員）
6月下旬 1学期期末試験		学習アンケート結果分析
9月	授業実践報告	公開授業・実践報告
11月20日	<b>第2回校内研修会</b>	<b>公開授業 講習会</b>
11月下旬 2学期期末試験		学習アンケート結果分析
12月	授業実践報告	公開授業・実践報告
1月 20日	<b>公開研究発表会</b>	<b>研究授業 講演会</b>
2月		今年度の振り返り
3月		次年度への提言

※定期的に教科部会を実施する。

## 7. 研究構想図



# 公開授業 指導案

13:30～14:20

学年・組	教科	授業者	単元または題材名	指導場所
1年2組	数学	新田 竜平	7章 データの分析と活用 1節 データの整理と分析	1年2組教室（2F）

## 本時の展開 板津スタイル・授業づくりの4つの視点

<板津スタイルに基づいた授業づくり>

- 1 今日の学習を見通す！（視点①）
- 2 今日の課題を確認する！（視点②）
- 3 自ら取り組み自分の考えを持つ！（視点③）
- 4 自分の考えを明確に伝え合う！（視点③）
- 5 自分の考えを深める，広げる！（視点③）
- 6 今日の学びを振り返る！（視点④）

<授業づくりの4つの視点>

視点①本時のねらいを理解し，  
学習の見通しをもたせる工夫  
視点②深い学びに導く学習課題づくりの工夫  
視点③考え，深め合う場の工夫  
(個別最適な学びと協働的な学びの往還)  
視点④振り返る活動の工夫

# 第1学年2組 数学科学習指導案

日 時：令和7年1月20日（月）第5限  
 指導者：教諭 新田 竜平  
 場 所：1年2組教室（2F）

## 1 単元名 7章 データの分析と活用

### 2 学習指導要領に関連する領域別目標

#### D データの活用

- ア（ア）ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解する。  
 （イ）コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理する。  
 イ（ア）目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。

### 3 単元の目標

- (1) データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。  
【知識及び技能】
- (2) データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする。  
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。  
【学びに向かう力、人間性等】

### 4 生徒の実態

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基本的な計算ができ、数学用語が定着している生徒は多い。  ●正負の数の計算があやふやだったり、全般的に基礎が定着できていなかったりする生徒も若干名いる。	○思考したり、判断したりすることができる生徒は多い。  ●他の人に言葉で説明したり、記述したりすることが苦手な生徒が多い。	○学習課題に対して意欲的に取り組む生徒が多い。気兼ねなく近くの生徒同士で教え合いや学び合いができる。  ●集中力が欠けたり、私語をしまったりする生徒が若干名いる。

### 5 指導に当たって(単元設定の理由)

#### (1) 生徒観

本学級の生徒は、人間関係も良好で男女ともに親しく、誰とでも交流できる明るい雰囲気がある。また、日常生活に関わる数学の問題に対する意欲が高い。しかし、数学に対する理解力が著しく乏しかったり、集中力を持続させることができなかったり、家庭学習が習慣化できていなかったりする生徒もいるため、学力には大変ばらつきがみられる。

#### (2) 教材観

小学校算数科では、統計的な問題解決の方法を知るとともに、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ及び帯グラフを学習し、度数分布を表やグラフに表したり、データの平均や散らばりを調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりしてきている。また、第5学年では測定値の平均について学習し、第6学年では、平均値、中央値、最頻値などの代表値を用いたりドットプロットなどを用いたりして統計的に考察したり表現したりすることを学習している。

中学校数学科において第1学年では、これらの学習を土台にして、データを収集、整理する場合には、目的に応じた適切で能率的なデータの集め方や、合理的な処理の仕方が重要であることを理解できるようにする。さらに、ヒストグラムや相対度数などについて理解し、それらを用いてデータの傾向を捉え説明することを通して、データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。

(3) 指導観

本単元では、日常生活における現象を題材として用いることで生徒の意欲を引き出したい。また、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って批判的に考察し、合理的で的確な判断や意思決定をする一連のプロセスを踏めるように、単元計画や学習課題を設定する。その際、生徒に自分の考えを記述したり、問題解決の過程や結果について説明したり議論したり、プロセスを振り返って気付いたことを記述したりする機会を設ける。また、大量のデータを処理できるコンピュータを活用する場面も設定する。

6 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒストグラム、度数折れ線、累積度数、相対度数、累積相対度数などの必要性和意味を理解している。</li> <li>・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じてデータを収集している。</li> <li>・目的に応じてデータを整理・分析している。</li> <li>・データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考えている。</li> <li>・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。</li> </ul>

7 指導と評価の計画 (11 時間)

時間	学習内容 学習過程等	【評価の観点】 評価規準	学習課題(■) 主な学習活動(○)		
			単元の中で 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」 の実現を目指す主な場面		
10 (意味づけ)	グループごとに整理・分析したことを発表し、その過程や単元全体の学びを振り返る。	<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。	<b>■</b> 整理・分析したことを発表し、その過程や単元全体の学びを振り返る。 ① グループ発表(発表に対する質疑応答や感想、アドバイスなどの時間を設ける) ② 単元全体の振り返りを記入する。 ③ レポート課題についての説明をきく。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
9	グループごとに整理・分析したことをもとに批判的に判断し、考察したことをパワーポイントや発表ノートにまとめる。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断している。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	<b>■</b> テーマに対する考察をし、パワーポイントや発表ノートにまとめる。 ① 分析したことからテーマに対する考察をする。 ② パワーポイントや発表ノートに整理・分析・考察したことをまとめる。 ③ 発表の役割分担と練習をする。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
8	グループごとに収集したデータを整理・分析する。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・目的に応じてデータを整理・分析している。	<b>■</b> 目的に応じてデータを整理・分析する。 ① エクセルやグラフなどを用いてデータを整理する。 ② グラフや代表値からデータの傾向を分析する。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び

7	グループごとにテーマを設定し、データの収集・整理・分析の計画を立てる。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・目的に応じてデータを収集している。	<b>■</b> テーマを設定し、データの収集・整理・分析の計画を立てる。 ① 4人グループをつくり、テーマを決定する。 ② どのようにデータを収集・整理・分析するかを考え、計画書を記入する。
			主体的な学び    対話的な学び    深い学び
6 (本時)	大縄跳びでは2列、3列のどちらの並び方で跳ぶのがよいのかを、データを収集して分析し、データの分布の傾向を読み取り説明する。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断している。	<b>■</b> データをもとに、どちらの並び方がよいかを決め、根拠をもとに理由を説明する。 ① どんなデータを集めればよいかを考える。 ② データをコンピュータで整理する。 ③ ヒストグラム・度数折れ線・代表値などからデータの特徴を分析する。 ④ どちらの並び方がよいかを決めて根拠を示して説明する。 ⑤ データを分析するうえで、大切だと思ったことを振り返る。 ⑥ データに基づいた問題解決の過程を振り返る。
			主体的な学び    対話的な学び    深い学び
5	10秒チャレンジ(時間の感覚を計る実験)をしてデータを収集し、整理・分析をして、これまでの既習事項を復習する。	<b>【知識・技能】</b> ・ヒストグラム、度数折れ線、累積度数、相対度数、累積相対度数などの必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理している。	<b>■</b> 10秒チャレンジの実験データを収集・整理・分析する。 ① 10秒チャレンジの説明と実験の実施。 ② コンピュータを用いたデータの整理方法を知る。 ③ ヒストグラム・度数折れ線・代表値などからデータの特徴を分析する。
			主体的な学び    対話的な学び    深い学び
4	現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録の代表値や範囲を求め、それらを用いて、現在のチームの記録が優勝時のチームと比べて遅くなったといえるかどうかを説明する。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断している。	<b>■</b> 記録のちがいを分かりやすく伝えるには、どうすればよいか考える。 ① 代表値と範囲を求める。 ② 現在のチームの記録が優勝時のチームと比べて遅くなったといえるかどうかを説明する。
			主体的な学び    対話的な学び    深い学び

3	現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録の相対度数を求め、折れ線に表して、2つの分布を比較する。	【知識・技能】 ・相対度数, 累積相対度数の必要性和意味を理解している。	■ 2つのデータを比較して分かることを考える。 ① 各階級の相対度数を求める。 ② 相対度数を用いてヒストグラムをかく。 ③ 2チームを比較してわかることを共有する。 ④ 累積相対度数とチームの目標が達成できている人の割合を求め、2チームを比較する。
	現在のチームと優勝時のチームで、1500m走を6分未満で走った生徒の割合を、累積相対度数を用いて比較する。		主体的な学び   対話的な学び   深い学び
2	現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録を度数分布表やヒストグラム、度数折れ線に表し、それぞれの分布の特徴を読み取る。	【知識・技能】 ・ヒストグラムや度数折れ線, 累積度数の必要性和意味を理解している。	■ データを表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取る。 ① ヒストグラムを作成し、分布の特徴を読み取る。 ② 度数折れ線をかき入れ、どのようなことが捉えやすくなるかを考える。 ③ 階級の幅をいろいろな値に変えてヒストグラムを作成し、特徴やちがいを読み取る。
	階級の幅の異なる複数のヒストグラムを比較し、検討する。		主体的な学び   対話的な学び   深い学び
1	単元の見通しを持つ。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・小学校でデータの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	■ データを整理し、分析するためにはどうすればよいかを考える。 ① 単元計画や単元でつけた力を確認する。 ② 4人グループをつくり、現在のチームの1500m走の記録が、優勝時のチームの記録と比べて遅くなったかどうかを調べる方法について話し合い、現段階でできる分析をする。 ③ 各グループ全員で発表する。
	現在のチームの1500m走の記録が、優勝時のチームの記録と比べて遅くなったかどうかを調べる方法について話し合う。		主体的な学び   対話的な学び   深い学び
0	レディネステストを行う。	【知識・技能】 ・平均値, 中央値, 最頻値などの代表値を用いたりドットプロットなどを用いたりして統計的に考察したり表現したりしている。	■ 小学校で学んだデータの分析の仕方を復習する。 ○レディネステストで、平均値・最頻値・中央値・階級・階級の幅・ちらばりのようすなどについて復習する。
			主体的な学び   対話的な学び   深い学び

8. 本時の学習（第6時）

(1) 本時の目標

目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 【思考力, 判断力, 表現力等】

(2) 本時の展開

<板津スタイルに基づいた授業づくり>

- 1 今日の学習を見通す！（視点①）
- 2 今日の課題を確認する！（視点②）
- 3 自ら取り組み自分の考えを持つ！（視点③）
- 4 自分の考えを明確に伝え合う！（視点③）
- 5 自分の考えを深める、広げる！（視点③）
- 6 今日の学びを振り返る！（視点④）

<授業づくりの4つの視点>

- 視点①本時のねらいを理解し、  
学習の見通しをもたせる工夫
- 視点②深い学びに導く学習課題づくりの工夫
- 視点③考え、深め合う場の工夫  
(個別最適な学びと協働的な学びの往還)
- 視点④振り返る活動の工夫

過程	時間	学習内容 (学習形態)	ス・視	教師の役割	◇指導上の留意点 …評価 (【観点】，[方法]，*…支援)
つかむ	3	・本時までの既習事項を振り返る。(全体)		・ヒストグラムや度数折れ線から分かること、相対度数や累積相対度数、代表値などの意味などを確認する。	◇既習事項を掲示物にしておき、生徒のつぶやきに合わせて黒板に貼って確認させる。
	2	・単元全体の目標を振り返る。(全体)		・単元の最後には、自分たちでテーマを設定して、データを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるようになることを確認する。	◇本時の授業では、左記の予行練習のような位置づけになることを確認し、第10時につなげさせる。
考え深め合う	2	・本時の学習課題をつかみ、本時の流れを把握する。(全体)	1 2 ① ②	・設定を伝え、学習課題を提示し、本時の流れを確認する。	◇過去の先輩がとったデータであるということや運動会は10日後であること、本番は2分間でひっかからずに跳べた最高回数を競うという設定を共有する。
				<p>◎(目標) データを分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。</p> <p>☆(学習課題) データをもとに、どちらの並び方がよいかを決め、根拠をもとに理由を説明する。</p>	
考え深め合う	2	・データをどのように整理すればよいかを考える。(全体)		・モニターに投影してデータを提示し、どのようなことが分かるか、このデータを見ただけで特徴を分析できるかを問う。	◇このデータだけでは分かりづらいので、ヒストグラムや度数折れ線に整理したり、代表値を調べたりしたいということを生徒から引き出す。

考え深め合う	2	・ 2列と3列どちらの並び方が良いかを第一印象で仮に判断する。(個人)		・ 挙手をさせ、全体の意見を把握しておく。(ペア活動の際に、選んだ並び方が同じ者と交流できるように、名前マグネットを黒板に貼らせる)	◇意見はいつでも変更することができ、最終的に根拠をもとに説明できれば、2列でも3列でも正解になるということを確認する。
	5	・ データを分析し、話し合い、2列と3列それぞれのデータの特徴をつかむ。(ペア)	3	・ スグラパで作成したヒストグラムや代表値をまとめた表などが添付された発表ノートを配布する。	◇自分でデータの整理をしたい生徒がいたときのために、スグラパをすぐに操作できるように準備しておく。 ◇日ごとの上達具合が分かるデータがほしいと言われたら、すぐに提示できるように準備しておく
	7	・ 2列と3列のデータのそれぞれの特徴を共有する。(全体)	3 4 ③	・ もう一度、2列と3列のどちらを選ぶかを問い、なぜその並び方を選んだのか(選ばなかったのか)を説明させる。	◇データのどの部分を根拠にしているのかをヒストグラムや代表値を示しながら、自分の言葉で説明できるように促す。
	8	・ どちらの並び方がよいかを決めて、説明の準備をする。(個人)	4 ③	・ 発表ノートに着目点をマーキングするなど、何を根拠にしているのかをわかりやすくするよう促す。	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断している。【思考・判断・表現】 [発表ノート] *データをどう読み取るか、代表値から分かることは何か、ヒストグラムの分布はどのようになっているか、などを問い返す。
	7	・ 数人が発表し、共有する。(全体)	3 ③	・ 発表者の発表ノートを投影して説明させる。	◇説明後に付箋機能を使って、質問したり評価したりさせ、発表ノートを提出させる。
	5	・ 説明し合い、評価し合う。(ペア)	4 5 ④	・ 相手にタブレットの画面を見せて、根拠となる部分を示しながら、自分の言葉で説明するよう促す。	
まとめる	5	・ 本時の学習を振り返る。(個人)	6 ④	・ データを分析するとき大切だと思ったことや、考え方が変わったきっかけなどを記入させる。	◇データはグラフや代表値など複数の手段で分析することや、データに基づいて根拠を明らかにして説明する大切さなどを共有する。
	2	・ データに基づいた問題解決の過程を振り返る。(個人)		・ 時間があれば教科書p250の「PPDACサイクル」を紹介し、2周目に入っていくきっかけにする。	

振り返り

- ・ データはグラフや数値などいろいろな方法で分析することが大切だと実感した。また、違う角度から分析してみることも大切だと分かった。
- ・ ○○さんの意見をきっかけに考え方が変わった。自分が気付かなかったところに目を向けていてすごいと思った。

### (3) 板書計画

◎データを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。←振り返りシートに記載  
☆データをもとに、どちらの並び方がよいかを決め、根拠をもとに理由を説明する

本時の流れ  
① 問題把握  
(収集・整理)  
② 分析  
③ 理由の説明  
④ 発表  
⑤ 振り返り

写真

代表値

度数分布表

ヒストグラム

元データ

発表生徒の意見

2列：

3列：

振り返り

- ・データはグラフや数値などいろいろな方法で分析することが大切だと実感した。また、違う角度から分析してみることも大切だと分かった。
- ・友だちの意見をきっかけに考え方が変わった。自分が気付かなかったところに目を向けていてすごいと思った。

# 公開授業 指導案

13:30～14:20

学年・組	教科	授業者	単元名	指導場所
2年1組	社会	江戸 実佳子	第3章 近世の日本 第5節 幕府政治の改革	2年1組教室（3F）

## 板津スタイル・授業づくりの4つの視点

<板津スタイルに基づいた授業づくり>

- 1 今日の学習を見通す！（視点①）
- 2 今日の課題を確認する！（視点②）
- 3 自ら取り組み自分の考えを持つ！（視点③）
- 4 自分の考えを明確に伝え合う！（視点③）
- 5 自分の考えを深める，広げる！（視点③）
- 6 今日の学びを振り返る！（視点④）

<授業づくりの4つの視点>

- 視点①本時のねらいを理解し，  
学習の見通しをもたせる工夫
- 視点②深い学びに導く学習課題づくりの工夫
- 視点③考え，深め合う場の工夫  
(個別最適な学びと協働的な学びの往還)
- 視点④振り返る活動の工夫

# 第2学年1組 社会科学学習指導案

日時：令和7年1月20日（月）第5限  
指導者：教諭 江戸 実佳子  
場所：2年1組教室（3F）

## 1 単元名 近世の日本 幕府政治の改革

### 2 学習指導要領に関連する領域別目標

#### B 近世までの日本とアジア

##### (3) 近世の日本

##### ア（エ）幕府の政治の展開

社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解する。

イ（ア）交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現する。

(イ) 近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現する。

### 3 単元の目標

- (1) 社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解する。 【知識及び技能】
- (2) 社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現したり，近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現したりする。 【思考力，判断力，表現力等】
- (3) 近世の日本について，見通しをもって学習に取り組もうとし，学習を振り返りながら課題を追究しようとする。 【学びに向かう力，人間性等】

### 4 生徒の実態

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○小学校での既習事項や，前時の学習を生かすことができる。	○資料を読み取り，政策の意図や出来事の因果関係など自分の言葉で表現できる生徒がいる。 ●資料の読み取りをするときに何を記述すればよいか分からない生徒が1割程度いる。	○既習事項をもとに自分の考えをもち，それを基に他者と意見交換ができる。 ●自分の考えが持てず，教師や友達に質問できないままになってしまう生徒が若干名いる。

### 5 指導に当たって(単元設定の理由)

#### (1) 生徒観

本学級の生徒は，これまで提示された資料を個人で読み取り，その後，班で交流するという学習を繰り返す中で，資料を読み取る活動にも慣れ，4名程度のグループで役割分担をしながら，資料をもとに課題を解決する取組を続けてきた。学級の中には，そのような活動において，自分の考えをもち，相手に伝えることができる生徒もいるが，自分の考えをもつことができても，それを文章にすることが難しい生徒もいる。そのような生徒には，スモールステップで資料を読み取ることができるよう，読み取る際の視点を与え，資料の読み取りのハードルを下げ支援をしていく。

#### (2) 教材観

本単元「近世の日本」では，織田信長と豊臣秀吉が行ってきた政策による社会の変化，江戸幕府の支配体制の確立による産業や交通の発達，教育の普及や文化の広がりが社会にもたらした変化を捉え，幕府政治にどのような揺らぎが見え始めたかを取り扱う。

学習指導要領においては，日本の歴史を大観することを目的とし，そのために時代の特色を踏まえるべきということから，政治の展開，産業の発達，社会の様子，文化の特色などについて他の時代との共通点や，相違点に着目して江戸時代の特色を明らかにしていく。

(3) 指導観

学習指導要領において歴史分野では、「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする」ことが目標の1つである。これまでの学習形態を踏まえて、江戸時代の特色を理解するために、知識の羅列ではなく、資料の読み取りをもとに、歴史的な出来事について考えられるように工夫をしたい。そのために毎時間の授業の予習として、教科書の内容を整理するためのマッピングをさせ、授業においてペアで共有・確認させたり、当時の身分になりきって、提示した資料をもとにして事象をインタビュー形式でまとめさせたりする場面を設定している。苦手意識を持っている生徒には、マッピングをする際のポイントを示したり、クラスの中で上手くマッピングにまとめることができている生徒に工夫した部分を説明させたり、資料を読み取る視点を与えたりしたい。

また、まずは知識をおさえる、獲得した知識をもとに思考を深める、最後に考えまとめたことを他者と共有する、と大きく3つに分けた単元構成をとり、段階的に単元を貫く課題について考えられるようにした。必要な知識をしっかりとおさえながら、さまざまな事実を関連付けて思考を深めさせ、生徒が主体となって課題について考え、また新たな課題を追究させられるようにしていく。

6 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	・ 社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

7 指導と評価の計画（13時間）

時間	学習内容 学習過程等	【評価の観点】 評価規準	学習課題(■) 主な学習活動(○)		
			単元の中で 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」 の実現を目指す主な場面		
13	レポート作成	【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 江戸幕府が行き詰まった理由について、発表を基に考えたことをまとめている。 [レポート]	■江戸幕府はなぜ次第に行き詰まっていったのか？ ①他の班の発表を聞いて、事実と自分が考えたことを分けてまとめる。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
12	それぞれの身分の視点から、江戸幕府が衰退する過程について考察し、その内容をプレゼンテーションにまとめ発表し、クラスの中で大賞を決める。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 江戸幕府が行き詰まった理由について、これまでの学習を踏まえて根拠を基にまとめている。 [プレゼンテーション]	■江戸幕府はなぜ次第に行き詰まっていったのか？ ①他の班の発表を聞いて、自分の考えに加筆修正を加え、江戸幕府が行き詰まった理由についてまとめる。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
8 ～ 11	発表に向けて、プレゼンテーション作成	【思考・判断・表現】 ・ 班員と協力して内容を整理し、単元の問題を解決するためのプレゼンテーションを作成している。 [プレゼンテーション]	■幕府が衰退していく様子をプレゼンテーションにまとめよう。 ①内容を整理し、それぞれの身分の視点に立って、身分ごとの生活の変化や商工業の発達、財政の行き詰まりについてまとめる。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び

7 (本時)	天保の改革と諸藩の改革	<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が続く中で幕府の対応や、諸藩が力を伸ばして幕府に対抗できるような力をつけたことについて理解している。</li> <li>・教科書や資料を基に、当時の人々の様子についてまとめている。</li> </ul> [まとめカード]	<b>■社会の変化や財政難に対する、幕府や諸藩の政策の結果は？</b> ①ウェビングマップをペアで交流し加筆修正する。 ②幕府衰退につながる世の中の動きについて、担当身分の立場でインタビュー形式にまとめる。 ③課題を考察する中で疑問に思ったことや、さらに深堀りしたいことを書きだす。
			主体的な学び   対話的な学び   深い学び
6	欧米諸国の接近, 新しい学問 (海防と尊王思想)	<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府とその他の人々で欧米諸国への対応についての考え方の違いが生まれたことについて理解している。</li> <li>・教科書や資料を基に、当時の人々の様子についてまとめている。</li> </ul> [まとめカード]	<b>■外国船の接近に対して、幕府はどんな対策を行ったか？また、新しい思想が与えた影響は？</b> ①ウェビングマップをペアで交流し加筆修正する。 ②幕府衰退につながる世の中の動きについて、担当身分の立場でインタビュー形式にまとめる。 ③課題を考察する中で疑問に思ったことや、さらに深堀りしたいことを書きだす。
			主体的な学び   対話的な学び   深い学び
5	江戸の町人文化	<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の教育に対する関心が高まったことや、江戸を中心として栄えた文化にはどのような特色があったのか理解している。</li> <li>・教科書や資料を基に、当時の人々の様子についてまとめている。</li> </ul> [まとめカード]	<b>■江戸を中心に栄えた文化にはどのような特色があったか？そこから見えてくる当時の暮らしは？</b> ①ウェビングマップをペアで交流し加筆修正する。 ②幕府衰退につながる世の中の動きについて、担当身分の立場でインタビュー形式にまとめる。 ③課題を考察する中で疑問に思ったことや、さらに深堀りしたいことを書きだす。
			主体的な学び   対話的な学び   深い学び
4	田沼の政治と寛政の改革	<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府が財政難や百姓の要求に対して、どのような対策をしたのかについて理解している。</li> <li>・教科書や資料を基に、当時の人々の様子についてまとめている。</li> </ul> [まとめカード]	<b>■田沼意次と松平定信の政治の成果は？</b> ①ウェビングマップをペアで交流し加筆修正する。 ②幕府衰退につながる世の中の動きについて、担当身分の立場でインタビュー形式にまとめる。 ③課題を考察する中で疑問に思ったことや、さらに深堀りしたいことを書きだす。
			主体的な学び   対話的な学び   深い学び
3	社会の変化と享保の改革, 新しい学問 (国学と蘭学)	<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣経済が発達し、農村に広がったことによって農民の社会生活が変化したことについて理解している。</li> <li>・教科書や資料を基に、当時の人々の生活の様子についてまとめている。</li> </ul> [まとめカード]	<b>■社会の変化に対する幕府の改革の成果は？</b> ①ウェビングマップをペアで交流し加筆修正する。 ②幕府衰退につながる世の中の動きについて、担当身分の立場でインタビュー形式にまとめる。 ③課題を考察する中で疑問に思ったことや、さらに深堀りしたいことを書きだす。
			主体的な学び   対話的な学び   深い学び

2	藩校と寺子屋	<b>【知識・技能】</b> ・人々の教育に対する関心が高まったことや、江戸を中心として栄えた文化にはどのような特色があったのか理解している。 ・教科書や資料を基に、当時の人々の様子についてまとめている。 [まとめカード]	<b>■当時の人々の教育はどのように行われ、どんな特徴があったか？</b> ①ウェビングマップをペアで交流し加筆修正する。 ②幕府衰退につながる世の中の動きについて、担当身分の立場でインタビュー形式にまとめる。 ③課題を考察する中で疑問に思ったことや、さらに深堀りしたいことを書きだす。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1	単元の目標，学習の見通しをもつ	<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・既習事項を生かして，単元を貫く問に対して予想を立てている。	<b>■江戸幕府はなぜ次第に行き詰まっていったのか？</b> ①小学校での既習事項をもとに，江戸幕府が衰退した理由を予想する。 ②単元における目標や学習の流れを確認する。 ③インタビューカードを作成するにあたり，どの身分を担当するか班で役割分担する。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び

8. 本時の学習（第7時）

(1) 本時の目標

災害が続く中での幕府の対応や、諸藩が力を伸ばして幕府に対抗できるような力をつけたことについて理解することができる。 【知識及び技能】

(2) 本時の展開

<板津スタイルに基づいた授業づくり>

- 1 今日の学習を見通す！（視点①）
- 2 今日の課題を確認する！（視点②）
- 3 自ら取り組み自分の考えを持つ！（視点③）
- 4 自分の考えを明確に伝え合う！（視点③）
- 5 自分の考えを深める，広げる！（視点③）
- 6 今日の学びを振り返る！（視点④）

<授業づくりの4つの視点>

- 視点①本時のねらいを理解し，  
学習の見通しをもたせる工夫
- 視点②深い学びに導く学習課題づくりの工夫
- 視点③考え，深め合う場の工夫  
(個別最適な学びと協働的な学びの往還)
- 視点④振り返る活動の工夫

過程	時間	学習内容 (学習形態)	ス・視	教師の役割	◇指導上の留意点 □…評価 (【観点】，[方法]，*…支援)
つかむ	1 3	・あいさつ ・前時のまとめ確認 (全体)	2 ②	・わかりやすくまとめることができている生徒に発表させる。	◇おさえておきたいポイント（外国の接近に対する認識の違いが生まれてきたこと）を確認する。 ◇前時のまとめを受けて，本時では幕府と諸藩の力関係がどう変化してきたかについて追究することをおさえながら，課題につなげる。
	1	・課題の確認 (全体)		・課題を板書する。	
	1 3	・学習の見通し確認 (全体) ・マッピングの加筆 修正(ペア)		1 ①	
考え 深め 合う	18	・身分ごとのインタビューカード作成 (個人)  マッピングからテーマを決め，塗りつぶし，黒板にネームプレートを貼る。	3 ③	・資料を提示する。 ・インタビューカードを配布する。 ・本文や資料を関連させ，わかることをインタビュー形式でまとめるよう確認する	◇わからないことがあった場合は，同じテーマにネームプレートを貼っている友達に聞いてよいことを伝える。 ◇複数の資料を関連させることができるとなおよいことを伝え，根拠となる資料を明らかにして作成させる。 ◇余裕がある生徒には担当の立場だけでなく，複数の立場で作らせたりする。

<p>考え深め合う</p>	<p>18</p>	<p>・班で編集会議 (グループ)</p> <p>作成したインタビューカードを共有する。</p> <p>関連するインタビューカードをつなげ、マッピングを利用して課題について考察する。</p>	<p>4 ③</p>	<p>・机を班で合わせるように指示する。</p> <p>・立場が同じペアでインタビューカード内容に沿って実際にインタビューを再現するよう伝える。</p> <p>・うまくまとめることができている生徒のマッピングを学習用端末に投影する。</p> <p>・付箋を配布し、疑問に思ったことや深掘りしたいことを書き、あとでまとめカードに貼るよう確認する。</p>	<p>◇カード作成者は、できる限りカードを見ないで答えられるとよいことを伝える。</p> <p>◇自分の担当した立場だけではなく、もう一方の立場も踏まえて考察させる。</p> <p>◇付箋が単元のまとめのプレゼンテーションやレポート作成の際に、必要となることを伝える。</p>
<p>まとめる</p>	<p>5</p>	<p>・まとめカード作成 (個人)</p> <p>班での考察を基に、課題に対するまとめを100字以内の文章にしたり、分かりやすく図式化したりする。</p>	<p>5 ③</p>	<p>・机を元に戻すよう指示する</p> <p>・まとめカードを配布する。</p> <p>・まとめカードが書けたら、写真を撮りSKYMENUで提出するよう伝える。</p>	<p>災害が続く中での幕府の対応や、諸藩が力を伸ばして幕府に対抗できるような力をつけたことについて理解している。</p> <p><b>【知識・技能】</b> [まとめカード] *インタビューカードの中から1つ取り上げて、書かせる。</p>

まとめ（生徒の記述）  
幕府による天保の改革は、大名や商人から反発をうけ失敗し、権威が衰えることにつながった。薩摩藩や長州藩などは改革の中で財政の立て直し、軍力の整備に成功し、幕府に対抗する力をつけることができた。

※単元マップでの授業の振り返りは家庭学習としている。

(3)板書計画

**【単元を貫く問い】**江戸幕府はなぜ次第に行き詰まっていったのか。  
◎幕府や諸藩が行った改革と、その成果について理解することができる。  
☆社会の変化や財政難に対する、幕府や諸藩の政策の結果は？

<p>本時の流れ</p> <p>0. 前時のまとめ確認</p> <p>1. 課題とマッピング確認 (ペア)</p> <p>2. インタビューカード作成 (個人)</p> <p>3. 班で編集会議 (グループ)</p> <p>4. 今日のまとめ (個人)</p>	<p>○重要語句</p> <p>・天保のききん <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>・大塩平八郎の乱 <input type="checkbox"/></p> <p>・天保の改革 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>・上知令 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>・薩摩藩</p> <p>・長州藩 <input type="checkbox"/></p>
--	---

令和5・6年度 小松市学力向上推進事業

## 板津中学校 研究概要



### 内 容

1. 板津中学校の現状
2. 今年度の取組
3. 成果と課題

## 1. 板津中学校の現状

- 本時のねらいや流れを共有できている。
- 話し合いや交流の目的を理解して取り組むなど、  
意欲的に学ぼうとする生徒が多い。
- △教員と生徒の間で、  
目標とする姿の共有が充分にできていない。
- △振り返りの視点を明確にできていない。

## 2. 今年度の取組

今年度の研究主題

**目標達成に向けて、共に学び合う生徒の育成  
～AARサイクルを意識した授業実践を通して～**

## 2. 今年度の取組



### 重点取組

- ①見通しを持つ  
→「単元マップ」の作成・活用
- ②実践する  
→考え、深め合う場の工夫
- ③振り返る  
→「振り返りシート」の作成・活用

その他…校内研修の充実

## 2. 今年度の取組

### ☆Anticipation 見通しを持つ

#### ①「単元マップ」の作成・活用

- ・単元のゴールの姿を生徒と共有
- ・単元の中の1時間の意味付け

→生徒に見通しを持たせることで、  
主体的な学習につなげる。

中国・四国地方 単元マップ

組 番 名前

○単元を貫く課題

○予想

中国・四国地方に新幹線は必要(である・でない)。  
なぜなら、

※手掛かり…課題解決のための糸口  
→新幹線開通・開通しないことに  
関する理由の部分(箇条書きでよい)  
○…必要の立場 △…必要ない立場

○単元計画

日	目標	単元を貫く課題への手掛かりとなること
1	中国・四国地方の自然環境(地形・気候)について理解することができる。	
2	中国・四国地方の人々の生活について、交通網の整備の影響をもとに考えることができる。	
3	中国・四国地方の第2次産業が発達している理由について、自然条件や、交通網と関連させて考えることができる。	
4	交通網の整備と関連させて、中国・四国地方の第1次産業の特色を考えることができる。	
5	交通網の整備が、地域の第3次産業にどのような影響を与えたのかを考えることができる。	

○単元を貫く課題に対するまとめ

中国・四国地方に新幹線は必要(である・でない)。  
なぜなら、

○ふりかえり

## 2. 今年度の取組

### ☆Anticipation 見通しを持つ

- ①「単元マップ」の作成・活用
  - 教科部会で単元計画シートを作成
  - ・学習指導要領理解⇒ゴールの姿
  - ・生徒の実態把握
  - ・情報カードを用いたゴールから逆算した授業の組み立て
  - ・1時間ごとのつながりを意識
- ↓
- 単元マップの作成につなげる。



## 2. 今年度の取組

### ☆Anticipation 見通しを持つ

- ①「単元マップ」の作成・活用 (例)3年生国語科

学習指導要領に関連する領域別目標

単元の目標

生徒の実態を評価の3観点で考え、単元計画に活かす。

第3学年国語科 単元計画シート

1 単元(題材)名	誰かの代わり		
2 学習指導要領に関連する領域別目標	C 考えの形成 (1) 読むこと 二 文章を読んで筆者の考えを理解し、参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりして、これからの自分の生き方についての考えをもつこと。		
3 単元(題材)の目標	(1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、語や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けるとして、語感を磨き文章を豊かにすることができる。【知識及び技能】 (2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 言葉がもつ感情を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。【言語文化への関わり、人間性】		
4 生徒の実態	知識・技能 ○心構えを要する語句の意味を理解したり、表現に生かしたりすることはできる。 ●説明的な文章における抽象的な概念を表す語句や熟語、対義語、四字熟語などを習得する生徒が少なく、 ●表現的な文章について理解を深め、語や文章の中で使うことができる。	思考・判断・表現 ○文章を読んで理解したことや考えたことを基に自分の考えを思いや伝えたり、意見を述べたりすることができる。 ●文章を読んで理解したことを自分の知識や経験と結び付けたり、今の自分の生き方につなげて考えをまとめることが十分にできる生徒が少なく、 ●文章の内容が理解できず、教師や友達との意見に賛同できず、自分の考えをまとめることができない生徒が多い。	主体的に学習に取り組む態度 ○学習課題に対して意欲的に取り組む生徒が多く、生徒同士での意見交換や学び合いを積極的に行うことができる。 ●文章の内容が理解できず、教師や友達との意見に賛同できず、自分の考えをまとめることができない生徒が多い。
5 単元(題材)評価目標	知識・技能 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、語や文章の中で使うことができる。【知識及び技能】	思考・判断・表現 ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】	主体的に学習に取り組む態度 ・読んで文章を批判的に読み、今までの学習をかたして、これからの自分の生き方についての考えをまとめるようとしている。

7 指導と評価の計画 (5時間)

時間	学習内容 学習過程等	【評価の観点】 評価基準	学習目標(■) 主な学習活動(○)		
			主体的な学習の 態度(主体的な学習の 態度)	知識・技能 の 知識・技能	思考・判断・表現 の 思考・判断・表現
5	筆者のものの見方、考え方から自分の考えをまとめる。	【評価の観点】 ・文章を批判的に読み、筆者の考えから自分の生き方についての考えをまとめる。	■これらを生きていく社会で、どのような考えを持ち、どんな生き方をしたいかという筆者の考えを基にこれからの自分の生き方について400字程度で考えをまとめる。	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現
4	筆者の考え方について説明し合い、理解を深める。	【評価の観点】 ・文章の内容について説明し合い、理解を深める。筆者の考えを理解したり、自分の考えを述べたりする。	■筆者が伝えたいことは何か? ○筆者の考え方について考えたと、話し合ったことを発表し、筆者の考えをより理解する。	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現
3	筆者の考えについて、疑問、補を挟んで確かめたり、自分の考えをまとめる。	【評価の観点】 ・文章の内容について説明し合い、理解を深める。筆者の考えを理解したり、自分の考えを述べたりする。	■筆者の考えをどのようにして説明するかわかりにくい。疑問、補を挟んで確かめたり、自分の考えをまとめる。	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現
2	筆者の考えについて「理解する」といって、友達と話し合う。	【知識・技能】 ・文章の内容について説明し合い、理解を深める。筆者の考えを理解したり、自分の考えを述べたりする。	■筆者はどんな考えを持っているのか? ○「誰かの代わり」の「誰」と「代わり」はどのような意味を持つのか? ○「誰かの代わり」はどのような意味を持つのか? ○「誰かの代わり」はどのような意味を持つのか?	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現
1	筆者の考えについて交換する。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章を読み、筆者の考えについて理解し、自分の意見をもつことができる。	■筆者の考えについてどう思うのか? ○筆者の考えについて、共感・納得、疑問などを出し合い、理解を深める。	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現	○主体的な学習 ○知識・技能 ○思考・判断・表現

単元の最後の時間を指導計画の最初に記載  
→ゴールのイメージ

## 2. 今年度の取組

☆Action 実践する

### ②考え、深め合う場の工夫

- ・ 学習形態の工夫  
個人，ペア，グループ...
- ・ 学習内容や学習過程を  
生徒自身が判断・選択



## 2. 今年度の取組

☆Action 実践する

### ②考え、深め合う場の工夫 (例)3年生保健体育科 マッピングの活用 → 話し合い活動が活発に

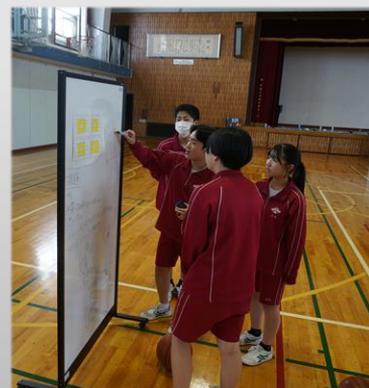
	アタック	シュート	ドリブル	
	パス	個人技能	キック	
	ボール	オフェンス	ディフェンス	
	キープ			

	アタック	3:3	しやうい位置にいく	
	パス	パス	パス	名前呼び
	パス	パス	パス	パス
	パス	パス	パス	パス

	ルール	見る	公正
	タイム	審判	挨拶
	得点	大会運営	メンバー
	ライン		確認



## 2. 今年度の取組

### ☆Action 実践する

#### ②考え、深め合う場の工夫 (例)3年生理科

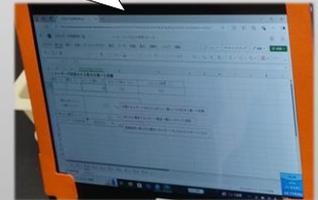
ICTの活用 → 考察場面の時間確保や深まり

実験の様子を録画する



考察する際に見返すことができる

実験で得たデータをExcelに入力し、計算する。考察の時間を十分にとることができる。



## 2. 今年度の取組

### ☆Reflection 振り返る

#### ③「振り返りシート」の作成・活用

- ・学びの値打ちを実感させる
- ・振り返りの視点を明確にする
  - 1.分かるようになったこと  
大切だと思ったこと
  - 2.自分の考えをまとめて説明することができたか
  - 3.意欲的に取り組めたか  
誰の意見が参考になったか  
など

連立方程式 2年組 番名前( )		この単元でつけた「連立方程式を解くことができる力・活用する力」 評価 (意欲的であるか・連立方程式を解くことができるか・活用することができるか)	
授業日	振り返り(課題をクリアし、目標を達成するために) 誰に何を教えてもらった・誰に何を教えたか 今日学んだことは何か(新しい数学的用語等) 家庭学習で何を学んだか	課題達成率(授業で解いた問題)	目標達成率(目標を再確認)
〇月 〇日	「学習目標」	課題達成率	%
〇月 〇日	「倍数と割合に関する問題を連立方程式を利用して解決できる」	課題達成率	%
〇月 〇日	「み・は・じに関する問題を連立方程式を利用して解決できる」	課題達成率	%
〇月 〇日	「割合に関する問題を連立方程式を利用して解決できる」	課題達成率	%
〇月 〇日	「割合に関する問題を連立方程式を利用して解決できる」	課題達成率	%
〇月 〇日	「連立方程式を使って問題を解決できる」	課題達成率	%

振り返りの視点

## 2. 今年度の取組

### ☆Reflection 振り返る

#### ③ 「振り返りシート」の作成・活用 (例)2年生理科

単元の初めと最後に  
同じ質問について考  
え、自身の考えの変  
容を実感する。

単元名	物質の成り立ち			
<p>どろ焼きの皮は、小麦粉、砂糖、卵、水、重曹などを混ぜ合わせた生地を焼いてつくられる。ふんわりとした仕上がりになるのはどうしてか。</p> <p>生地の中に気体を含ませているから(混ぜて)</p>	<p>学び・疑問・振り返り 4月17日</p> <p>合っているかは分からなかった。自分なりに色々な視点から考え、予想が当たったところがあった。</p>	<p>学び・疑問・振り返り 4月25日</p> <p>炭酸水素ナトリウムの実験の時よりもスムーズに進めることができたのがよかった。</p>	<p>学び・疑問・振り返り 5月1日</p> <p>原身には3つの性質があったことがわかった。原身がめろ、小まじいことは加えて(混ぜて)デニスボールと同じ大きさにするには2倍倍した(11)が正しいとして書いてる。</p>	
<p>どろ焼きの皮は、小麦粉、砂糖、卵、水、重曹などを混ぜ合わせた生地を焼いてつくられる。ふんわりとした仕上がりになるのはどうしてか。</p> <p>重曹(炭酸水素ナトリウム)</p> <p>どろ焼きの皮は、小麦粉、砂糖、卵、水、重曹などを混ぜ合わせた生地を焼いてつくられる。ふんわりとした仕上がりになるのはどうしてか。</p>	<p>学び・疑問・振り返り 5月2日</p> <p>分子によって原子の結びつきが違ってくるから。また、分子からつくられる物質があるから分子が、テストに向けて練習を頑張りたい。</p>	<p>学び・疑問・振り返り 月 日</p>	<p>学び・疑問・振り返り 月 日</p>	<p>振り返りの視点を提示し、それに沿って1時間の学びを振り返る。</p>

## 2. 今年度の取組について

### ☆Reflection 振り返る

#### ③ 「振り返りシート」の作成・活用

学習前は、人間が混ぜて気体を含ませていると思っていたけど、実験をして、炭酸水素ナトリウムが分解されることによって二酸化炭素が発生して生地がふくらむのだと分かった。水を分解するとき、調べることが多く大変だったけど、班で協力して調べることができたので、次の単元でも、協力して頑張りたい。(理科)

スピーチ会で〇〇さんと□□さんの、紙をずっと見るのではなくて、相手の方を見て話すのがいいと思いました。私も真似をできるようにしたいです。(国語科)

将来の夢についてスピーチを書くときに、Bodyを考えたとき、to不定詞を使って発表できました。また、特にfor~の文では、英語と日本語の順番の並べ方の違いを間違えないように気を付けたいです。(英語科)

自分の考えの変容を実感

他者からの学び

今後にかきたいこと

## 2. 今年度の取組

### ☆Reflection 振り返る

#### ③ 「振り返りシート」の作成・活用

生徒	教師
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習前後の自分の                   考えの変容を実感</li><li>・ 学びの手応えを自覚</li></ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>次の学習への意欲につながる</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒の理解の状況を把握</li><li>・ 学習の進め方の有効性を検証</li></ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>今後の授業改善につなげる</p>

## 2. 今年度の取組

### 校内研修の充実①

中嶋先生をお招きしての  
講義・演習(5月・11月)

- ・ 単元の見通しの重要性
- ・ ゴールから逆算した単元計画
- ・ 「のりしろ」を意識した  
          単元全体の授業の組み立て
- ・ 発問や資料提示の工夫

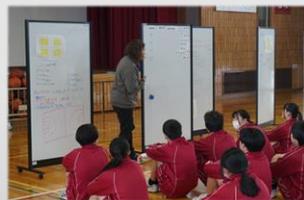


## 2. 今年度の取組

### 校内研修の充実② 授業実践報告

・9月 理科

・12月 保健体育科



## 2. 今年度の取組

### 校内研修の充実③ 公開授業に向けて



中嶋先生との  
オンラインによる研修  
(単元計画の練り上げ)

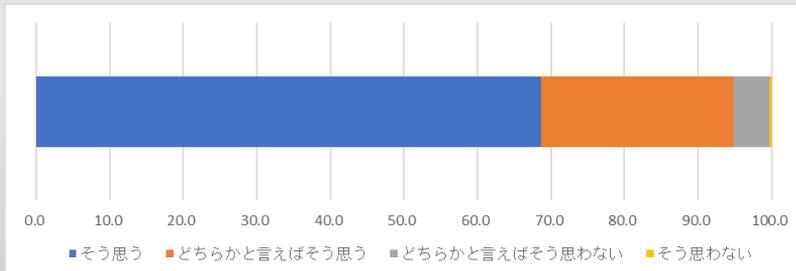
本時の模擬授業  
生徒のつまずきの予測  
教師の役割や手立ての確認



### 3. 成果と課題

#### 成果①

1時間の授業の流れや目標(目当て・ねらい)が示されている。



	目標が示されている
そう思う	68.7%
どちらかと言えばそう思う	26.2%
どちらかと言えばそう思わない	4.8%
そう思わない	0.3%

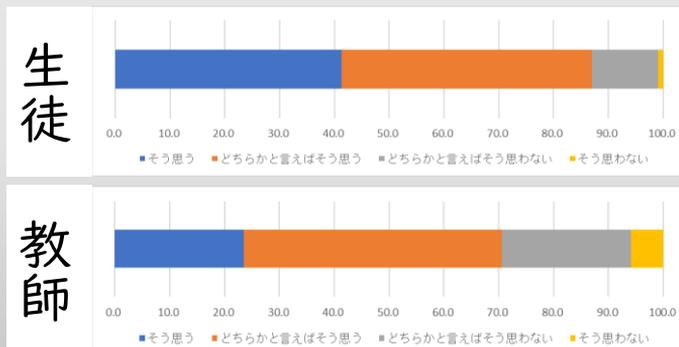
90%以上の生徒が肯定的な回答

→目標を理解して学習に取り組んでいる

### 3. 成果と課題

#### 成果②

振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。



そう思う	41.4%
どちらかと言えばそう思う	55.7%
どちらかと言えばそう思わない	12.1%
そう思わない	0.9%
そう思う	23.5%
どちらかと言えばそう思う	47.1%
どちらかと言えばそう思わない	23.5%
そう思わない	5.9%

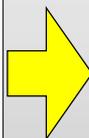
教員と生徒の間での肯定的な回答の割合の差が昨年度よりも減少

→教師が求める姿と生徒がイメージする姿の差を埋められた

### 3. 成果と課題

#### 課題

- ①考え、深め合う場の工夫が十分にできていない。  
生徒1人1人の見取り。
- ②教科ごとの取組の全体での共有が不十分。



#### 今後に向けて

- ①教師のコーディネート力の向上  
発問 生徒の考えをつなぐ  
ICTのさらなる活用
- ②授業実践報告の機会  
カリキュラムマネジメント

ご清聴ありがとうございました



MEMO

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page. It is intended for the main content of the memo.

# 板津中 校舎配置図

